

男女共同参画の視点からの防災研修

座 学

1 防災と男女共同参画

グループ
ワーク

2 男女共同参画の視点から具体的に考える

シチュエーションから考える行政の対策

3 男女共同参画の視点からの防災を実践する

地域の課題と行政が実行すべき解決策

全国の実践事例紹介

まとめ

4 まとめ

地域の災害の特色

(研修を実施する地域の災害の特色について報告してもらいます)

地域の防災における 男女共同参画推進の取組

(研修を実施する地域の防災における男女共同参画推進の取組について報告してもらいます)

セッション3の進め方

- 1 グループで「地域の防災対策の『課題』は何か」を話し合う
- 2 グループで「男女共同参画の視点から考えて、『優先的な課題』は何か。それらの課題について、「行政が実行すべき解決策は何か」を話し合う。
- 3 全体で各グループで話し合ったことを発表・共有する
- 4 講師が参考となる取組事例を紹介する。

セッション3(グループワーク)の進め方を説明します。

ポイント

- ✓ 自分たちの地域の「防災対策」の「課題」は何かを洗い出してもらう。(例:情報共有・情報伝達、避難訓練、避難所設営等)
 - ✓ 男女共同参画の視点から考えて、「優先的な課題」をいくつか選定し、「行政が実行すべき解決策」を考えてもらう。
- その際に、「長期的に取り組むこと」と「すぐに取りかかれること」を分けてリストアップする。
- それぞれの解決策の中で、行政機関内や地域の民間団体などと、どのような「連携」ができるかについても考えてもらう。
- ✓ 各グループで話し合ったこと(課題・解決策)を発表・共有する。
 - ✓ 最後に講師が参考となる事例を紹介する。

1. 地域の防災対策の「課題」は？
2. 男女共同参画の視点から考えて、
「優先的な課題」は？（複数可）
それらの課題について、
「行政が実行すべき解決策は？」
3. 発表タイム：各グループで話し合ったこと
を発表・共有しよう

（グループで話し合いをしてもらう時間に投影するスライドです）

男女共同参画の視点からの防災を実践するために

ポイント

- 1 防災に係る政策・方針決定過程への女性の参画を拡大する
- 2 防災に関する各種計画やマニュアルに男女共同参画の視点を反映する
- 3 防災を担う女性リーダーを育成し、女性リーダーが防災の現場で活躍できる環境を整備する
- 4 女性を含む多様な住民が、防災について繰り返し考える学習機会を提供する

グループワークのまとめとして、男女共同参画の視点からの防災を実践するために何がポイントかを伝えます。

ポイント

- ✓ 地方防災会議等、防災に係る意思決定過程の場に女性の参画を拡大することが必要
- ✓ 地域防災計画や地区防災計画、避難所の運営マニュアル等に、男女共同参画の視点を反映させることが必要
- ✓ 地域で女性の防災リーダーを育成し、育成されたリーダーが活躍できる機会を設けることが必要
- ✓ 防災に関する学習会や防災訓練等を開催するに当たっては、女性が参加しやすい工夫をすることが必要

⇒事例集を活用して具体的な取組方法を紹介する

男女共同参画の視点からの防災研修

座 学

1 防災と男女共同参画

グループ
ワーク

2 男女共同参画の視点から具体的に考える

シチュエーションから考える行政の対策

3 男女共同参画の視点からの防災を実践する

地域の課題と行政が実行すべき解決策

全国の実践事例紹介

まとめ

4 まとめ

事例1**男女共同参画の視点による避難所用品の整備①**静岡県
三島市**【取組の概要】**

- ・東日本大震災の教訓から、三島市地域防災計画の見直しや避難所運営を行う際に、**女性の視点での意見を反映させるために市長との意見交換会**を開催。
- ・意見交換会で得られた様々な意見を**地域防災計画に反映**させ、男女共同参画の視点からの**避難所運営マニュアルの作成**や**避難所用品の備蓄**、**母親向けの防災啓発講座**等を実施。

1. 避難所運営マニュアルの作成

- ・全ての避難所において、**平常時から女性専用の部屋を特定**
⇒女性用更衣室、専用スペース（授乳室・育児スペース）、女性用物干し場
- ・女性班を設置して、女性への配慮事項チェックシートを作成
- ・要配慮者・女性用の生活必需品物資リストの作成

2. 避難所用品の整備

一目でわかるピクトグラム（絵文字・図記号）等、女性・こどもに配慮したグッズを整備するとともに、**全ての避難所の防災倉庫・体育館において配備**。

3. 「ママが楽しく学ぶ防災講座」の実施

小さい子供を抱えた女性は一般の訓練・講座への参加が難しいことから、**受講日を選択できるよう複数回開催**するとともに、**託児を完備**。

防災クイズ、町中の危険箇所の確認、非常食の試食・料理などを実施。

平成28年3月現在

市の防災対策に男女共同参画の視点を導入するための工夫・取組についての事例です。

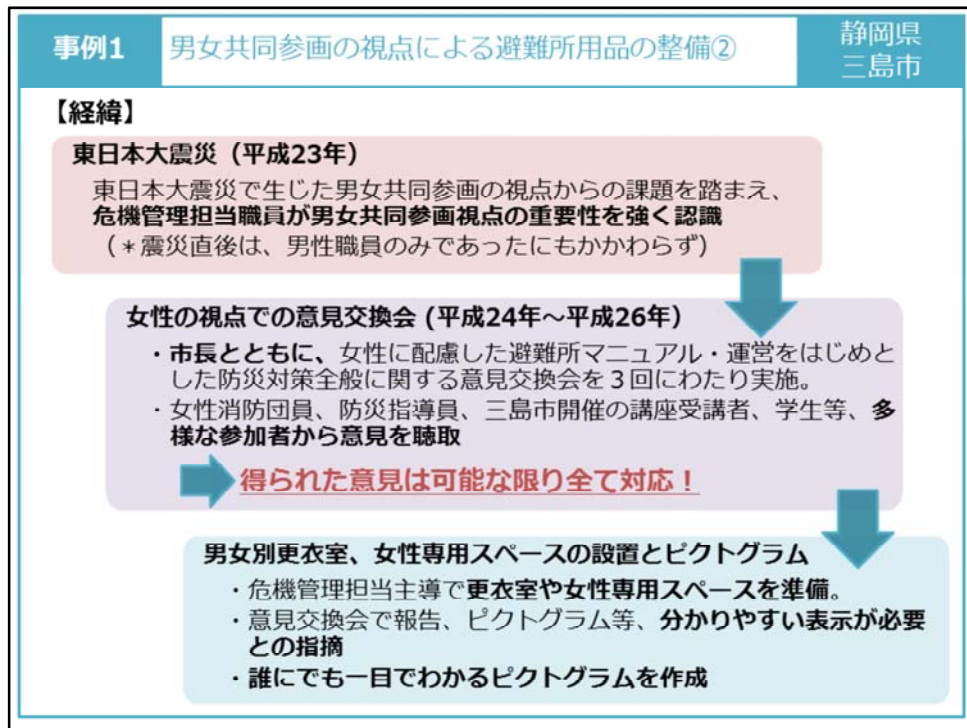
静岡県三島市では、地域防災計画や避難所運営マニュアル等の検討に当たり、市長が女性の地域住民から幅広く意見を聞き、市の防災対策に反映させていきました。

まず、取組の概要を説明します。

【ポイント】

- ① 意見交換会での意見を踏まえ避難所運営マニュアルを作成。プライバシーに配慮し、女性専用スペース等を全ての避難所に設置するとともに、配慮事項をチェックリストにする等、女性の視点を踏まえたものとなりました。
- ② 避難所用品の整備に当たっては、誰でもわかりやすく見やすいピクトグラムを活用する等、実際に使用する者の目線に立って取組を進めました。
- ③ また、小さい子供を抱えた女性が一般の防災啓発講座に参加できない状況に配慮し、託児を完備した母親向け講座を実施しています。

（「ママが楽しく学ぶ防災講座」の他に、「女性まちづくり講座」も開催し、そこでも数回防災のテーマを扱っている）



取組に至った経緯を説明します。

【ポイント】

- ✓ 東日本大震災を契機に、被災地で男女共同参画の視点からの課題が生じたことに着目し、当時危機管理担当課に女性職員はいなかったものの、市の防災対策に男女共同参画の視点を入れることの重要性を認識。
- ✓ 実際に女性の意見を幅広く聞くため、庁内関係課や女性団体と連携しながら意見交換会に参加してくれる女性を選出しています。
- ✓ 意見交換会で得られた意見は可能な限り対応することとしています。危機管理担当課が女性専用スペースの設置等を決めたところ、ピクトグラムによるわかりやすい表示が必要との追加意見を踏まえてすぐに対応する等、女性の視点を反映させた防災対策を行うことが可能となりました。

【補足】

- ◇ 危機管理課が連携した庁内関係課は、政策企画課等女性の活躍に関連する複数の課及び子育て支援課。
- ◇ 「女性の視点での意見交換会」では以下の多様なバックグラウンドを持った女性達が参加。
第1回 参加者：女性16名（自治会長、自治会婦人部、女性まちづくり講座受講生、女性懇話会役員、防災指導員、学校PTA役員、きずなづくりトーク参加者、女性消防団員、市避難所担当職員）
第2回 参加者：女性18名（防災指導員、女性消防団員、女性まちづくり講座受講生、女性懇話会委員、自治会長、市避難所担当職員ほか）
第3回 参加者：女性15名（自治会長、防災指導員、女性消防団員、東北復興イベント主催者、女性まちづくり講座修了生、防災力アップ！人材育成講座受講生、ママとね、順天堂大学保健看護学部学生、日本大学国際関係学部学生）

【取組のポイント】避難所用品の整備（ピクトグラム）



- ・ 絵と色でわかりやすく表示したピクトグラムを使用した部屋名表示マークを作成。
- ・ ビブスやアレルギー・マタニティマークはあらかじめ避難所に配備。
- * プライバシーに配慮し、女性専用の各スペースを設置。

実際に避難所に配備することとなった備品や、ピクトグラム（絵文字・図記号）です。

【ポイント】

- ✓ 絵と色で誰にでもわかるよう、ピクトグラムを使用した部屋名表示マークを作成しています。
- ✓ 女性専用スペースや授乳室・育児スペース等、これらの部屋をプライバシーに配慮して設置しています。

【取組のポイント】

意見交換会の実施

男女共同参画の視点からの防災施策を検討するに当たり、**女性の自治会役員やPTA役員、女性消防団員、防災指導員等、幅広い女性と意見交換。**

- ・意見交換会開始時、危機管理担当課には**女性職員がいなかったが、東日本大震災での男女共同参画の視点からの課題を踏まえ、市の防災対策に男女共同参画の視点の導入方法を検討。**
- ・**男女共同参画担当課、女性団体と連携**して参加者の選出を実施。

取組後の対応

避難所に備品を設置した後、**実際に開所訓練を実施。**

⇒避難所の**運営班に女性班や要配慮支援班を設置**したことから、訓練には**女性も積極的に参加。**

訓練等で新たに見えてきた課題は、適宜対応。

取組のポイントを説明します。

【ポイント】

- ✓ 防災対策に男女共同参画、女性の視点を導入するために、実際に幅広い女性から意見を聞いています。
- ✓ 意見を聞くに当たっては、横断的に様々な課と連携し、地域の多様な女性を選んでいきます。
- ✓ 新たに行った対策は実際に訓練を行うことで効果を確認し、参加者等から更に意見を聞くことによりフォローアップを行い、更なる対策につなげていきます。

男女共同参画の視点からの防災研修

座 学

1 防災と男女共同参画

グループ
ワーク

2 男女共同参画の視点から具体的に考える

シチュエーションから考える行政の対策

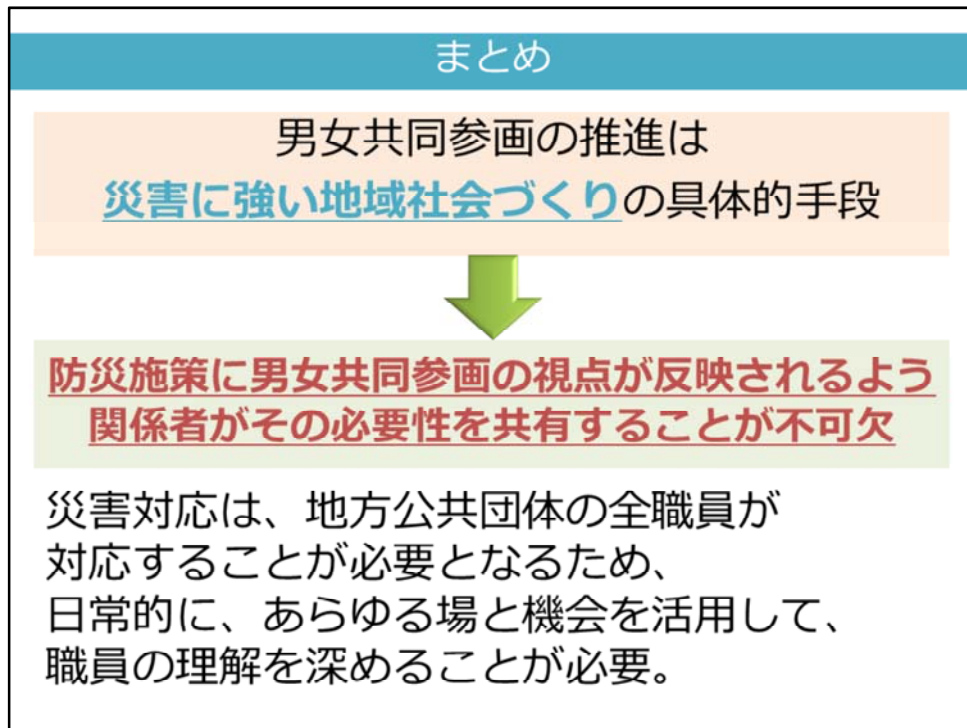
3 男女共同参画の視点からの防災を実践する

地域の課題と行政が実行すべき解決策

全国の実践事例紹介

まとめ

4 まとめ



研修全体の「まとめ」として、以下の点を確認します。

ポイント

- ✓ 「災害に強い社会」を作るには、地域に住む多様な人々の「困難」と「支援ニーズ」を把握し、平常時から地域の人々の多様な「力」を最大限に活用できるような備え・地域づくりを行っておくことが必要。そのための具体的かつ効率的な手段が「男女共同参画の推進」である。
- ✓ 男女共同参画の視点からの防災を進めるには、地方公共団体が果たす役割は大きい。防災施策に男女共同参画の視点が反映されるよう、関係者（防災関係者だけでなく、住民も含め）が共にその必要性を共有することが不可欠。
- ✓ この研修をきっかけにして、「防災・危機管理担当」と「男女共同参画担当」の連携・協働が進むとよい。また、災害対応は、地方公共団体の全職員が対応することになる。このため、日常的、定期的に、各種会議や研修等のあらゆる場と機会を活用し、職員の理解を深めることが必要。